



新任のご挨拶

循環器科部長

わた なべ けい すけ
渡邊 圭祐

このたび新しく循環器科部長に就任いたしました渡邊圭祐と申します。

前任の丹羽先生の後ということで責任の大きさを感じている次第ですが、どうぞよろしく願いいたします。

まずは自己紹介をかねて、簡単に私の略歴を述べてみたいと思います。

自分は大分市の生まれで1997年に熊本大学医学部を卒業し、同大学の循環器内科に入りました。もともと救急医療に興味があったこと、循環器疾患というのは救急医療と密接に結びついていること、苦しんでいる心筋梗塞の患者さんがカテーテル治療によって劇的に痛みもなくなり改善するようなことなど、“患者さんを救う”循環器診療にやりがいと魅力を感じたからです。

研修医時代を2年間熊本で過ごした後、3年目に別府市にある新別府病院に赴任しました。そこで循環器内科の基礎を学ばせていただいたのですが、当時の新別府病院は中村夏樹循環器科部長（現新別府病院院長）の『重症患者を診ろ』という理念のもと、ICU（集中治療室）は循環器科が管理していました。そこで学ぶうちに集中治療領域をもっと学びたいと思うようになり、2004年から2年間だけ千葉大学救急集中治療部にて研鑽を積みました。そこでは循環器を完全に離れてICUドクターとして働きましたが、それまでは診なかった多種多様な疾患を診ることができ、本当に勉強になりました。

その後2006年に再び新別府病院に赴任し、そこからはカテーテルインターベンションを本格的に学び始めました。先輩医師の指導を受け、また学会出席や他病院への見学などで技術の習得に励み、5年前に認定医を、昨年より専門医資格をとることができております。

その傍ら新別府病院在籍中には日本DMAT（Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チーム）の資格をとり、東日本大震災、熊本地震にも赴いたことは貴重な経験となりました。

このたび縁あって大分循環器病院に赴任いたしました。

大分に循環器の専門病院を作り、大分における循環器診療にさらに積極的に貢献して行きたいという秋満院長の理念のもと、一昨年に竣工した新病院にて、患者さん、地域住民の皆様方に信頼してい

ただき貢献できるよう努めてまいり所存であります。

私が専門としている虚血性心疾患は狭心症や心筋梗塞といった、心臓の血管が狭くなる、つまりといった病気です。心筋梗塞になれば（全てではありませんが）痛みがずっと続き苦しいため病院に行こうという気になりますが、狭心症は一般的には30分以内には症状がなくなりますし、症状がないときには心電図や心エコー検査に何も異常が出ないことのほうが普通です。すなわち心電図が正常だから大丈夫とは必ずしも言えないということです。また胸部圧迫感が典型的ですが、顎や肩、みぞおちの痛みであったり、また痛みではなく単に息があがるといった症状のこともあります。ですから“狭心症かも”という目でみないと見逃してしまうことがあります。少しでも狭心症が気になるという方はぜひ診察、検査を受けていただきたいと思います。

また足の血管が狭くなる、閉塞性動脈硬化症という病気もあります。症状は、歩いていると足（特にふくらはぎあたり）が痛くなり、休むとよくなってまた歩けるようになるというものです。もう年だからといって何となく納得していませんか。外来で行う簡単な検査で足の血管が狭いかどうかは分かります。きちんと治療を行えば、痛みも全くなって元気に歩けるようになるかもしれません。

上記の狭心症、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症といった病気は、カテーテルインターベンションで症状をよくし、生活習慣病の管理でその後の再発、予防に努めるといった方針となります。術者として皆様に安全、正確なカテーテル治療を提供し、また内科医として日頃の外来診療では、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病のコントロールに努めていく所存であります。

なにかご不明な点がございましたら、お気軽にお尋ねください。

今後ともよろしく願いいたします。



《4月に新入職員を迎え、写真撮影しました》

臨床検査部の紹介

臨床検査技師部長 梁井 恵子

皆さんは、病院で「おしっこをとってきてください。」や「採血させてください。」等と言われることがあると思います。この出してもらった尿や血液などの検体の検査をすることが、私たち臨床検査技師の主な仕事です。採取された検体には皆さんの体の情報がたくさん詰まっています。多くの測定機器や試薬を用いていろいろな項目を測定し、診療に役立つデータを提供しています。そして、精密かつ正確な値を提供するために日々、精度管理に努め、大分県医師会や日本臨床検査技師学会などの外部精度管理にも積極的に参加しています。

このような「検体検査」とは別に、患者様に直接接して行う「生理学的検査」も私たち臨床検査技師の仕事です。心臓が動くときに発生する微弱な電氣的信号を波形として表す心電図や、超音波を用いて体の内部の状態を画像化して観察する超音波検査などがあります。患者様に直接行う検査の為、症状を確認しながら行っていきます。また、運動負荷検査（心電図を装着しベルトコンベアの上を歩きます）のように患者様に協力いただき進めていくこともあります。患者様に安心して検査を受けていただけるように、最新の知識・技術を習得するため各種学会・研修会に参加し、笑顔で患者様の話に耳を傾けることを心掛けています。

「仕事は楽しく、かつ真摯に取り組むべきである。」と思っています。当院では現在8名の臨床検査技師が業務に携わっていますが、私たちの仕事は直接患者様に接することの少ない仕事です。患者様の体から提供していただいた検体や生体情報から、患者様の体の状態を把握して、悪ければ主治医に報告し、良くなっていれば安堵しています。患者様と接する機会が少なくとも、病気と向き合い闘っている患者様の支援ができれば幸いと思っております。



ひな祭りコンサートを開催しました

3月4日(土) 晴れ。午前の診療が終わった外来待合ホールにて、病院スタッフによる『げんき体操&ひな祭りコンサート』を行いました。



理学療法士が講師となって、音楽に合わせて座ったままでもできる体操をしました



最後には全員で「上を向いて歩こう」を歌いました

参加して下さった患者様やご家族の方に、少しでも明るい気分になってもらえたら私たちスタッフも嬉しく思います♪ 次の開催をお楽しみに…。

患者さま・ご家族向けBLS研修を行いました

循環器内科 江崎 かおり

救急車の平均到着時間は8.6分と言われています。心臓が止まってから1分ごとに救命率は7～10%下がります。突然心臓が止まった人に救急車が来るまで何も処置がされなかった時より、その場にいた人が胸骨圧迫(心臓マッサージ)など応急手当をした時のほうが命が助かる確率があがります。また、心臓が停止する原因の中で心室細動や無脈性心室頻拍という悪性の不整脈がありますが、AED(自動体外式除細動器)という機械を使い不整脈を停止させると、心臓はふたたび動き出すことができます。

日本では2004年より一般の市民でもAEDが使用できるようになり、学校や空港、駅、ホール、スポーツ施設やデパートなどいろいろな場所でAEDが設置されるようになりました。救急隊が来るまでに電気ショックがされなかった場合の社会復帰率は17.9%でしたが、一般市民がAEDを使って電気ショックを行った場合の社会復帰率は38.2%と2倍も高いものになりました。(「平成23年版救急・救助の現状」)

車の免許取得の際や学校などで救命処置やAEDの使用法を知る機会は増えていますが、講習を受けたことがない方も多く、経験がない救命処置やAEDの使用をためらう場合もあるようです。少しの知識と勇気があれば、ご自分の手でご家族やご友人、目の前の方の命を救うことができるかもしれません。

今回、私たちは心臓リハビリテーションという心臓の治療のプログラムの一環として、心臓の病気を患った患者様とご家族にAEDを用いた救命処置の講習会を行いました。2時間を越える講習会でしたが、皆さん非常に熱心に取り組まれていました。沢山の質問をいただき、健康に大きな関心を持たれていることも知ることができましたし、入院生活や外来診察室ではしなかったお話もできて私たちスタッフにとっても大変良い経験となりました。今後も回数を重ねて講習会を開催することを検討しています。



新任ドクター紹介

①座右の銘 ②趣味 ③今、一番したいこと ④医師になった理由
⑤もし、医師になっていなかったら… ⑥患者様へ向けて一言



腎臓内科部長 **吉田 博**

- ①臥薪嘗胆
- ②魚釣り・プロ野球観戦
- ③外来患者さまの待ち時間の短縮
- ④子どもの頃は病弱だったため
- ⑤他の分野の研究者
- ⑥何でも遠慮せず相談してください



循環器内科 **増田 季美子**

- ①意志あるところに道は開ける
- ②香りもの(香水やハンドクリーム)などを集めること。文房具店をウロウロすること。工業地帯を眺めること。
- ③北海道へ旅行に行きたい
- ④子どもの頃、お世話になった親戚が病に倒れ、長い闘病生活を送る様子を見て自分も何か力になりたいと思ったのがきっかけです。また、手塚治虫の「ブラックジャック」に憧れたのも大きな要因と思います。

⑤食品メーカーでお菓子やカップラーメンの企画・開発に携わる仕事をしてみたいです。

⑥患者さまとともに歩む医療を目指しています。「最近動悸がする」「胸のあたりに違和感がある」「なんだか疲れやすい」等、お困りのことがございましたら、お気軽にご相談下さい。



循環器内科 **富来 公一**

- ①一所懸命
- ②料理・バドミントン・酒
- ③海外旅行(オーロラを見に行きたい)
- ④人を助ける仕事がしたかった
- ⑤医療に関わる仕事をしていたと思います

⑥新しく赴任しました、富来と申します。よく大分(杵築や国東)出身かと言われるますが、生まれは福岡、祖父が大分出身です。患者さまには安心してカテーテル検査などを受けて頂けるよう心がけていきたいと思っております。これからどうぞよろしくお願い致します。



院内研究発表会について

2月18日(土)に第6回大分循環器病院研究発表会を行いました。医師をはじめ、看護部、コ・メディカル、事務部より全10題の研究発表がありました。

それぞれが専門分野に関する調査・研究を行い、その成果を発表しました。発表を聞いた職員からは多くの質問や意見が出され、他部門の業務を理解するのに大変有意義な会となりました。今後もこの研究発表を続け、みなさまに選ばれる病院を目指していきたいと考えています。





アスパラガス

土の中からニョキニョキ伸びてくる姿が愛らしいアスパラガスは、春から初夏にかけてが旬の野菜です。

グリーンアスパラガスとホワイトアスパラガスの二種類が有名ですが、発芽後、すぐに盛り土をして日光に当てずに地中で育てたものがホワイトアスパラガスで、二つは全く同じ品種です。栄養的にはグリーンアスパラガスの方が優れており、たんぱく質、ビタミン、ミネラルをバランスよく含んでいます。特にアミノ酸の一種であるアスパラギン酸を多く含み、疲労回復や美肌に効果を発揮します。



調理法は焼く、炒める、揚げる、といった方法がお勧めです。旬のものは甘みが強く、栄養も豊富です。料理の彩りにも大活躍のアスパラガスを是非お試しください。



看護部の制服が新しくなりました

3月1日から着用しています、新しい制服です。

今回の制服は、みなさまに分かりやすいように役職ごとに色分けをしています。

気持ちも新たに、がんばっています♪



看護助手

看護師

副師長&主任

看護師長

看護部長

編集後記

今回の「心音」は今までより少しだけ記事を増やして発行致しました。年間の発行回数が少ないこともあり、せめて少しページを増やそうと、今回はこのような形にしてみました。当院のことをもっと皆様に知って頂きたい、そんな気持ちで「心音」をお届けしています。

医療法人 輝心会
大分循環器病院
Oita Cardiovascular Hospital

〒870-0837 大分市太平町4組
TEL 097-544-8800(代表)
ホームページ: <http://www.oita-junkanki.jp/>

